

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「こえに出してよもう」 教材名「おとうとねずみチロ」

2 単元の目標

場面の様子を表す語句を確かめ、語のまとまりや響きに気を付けて音読できる。場面の様子に着目し、チロの行動を具体的に想像して読み方を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①場面の様子を表す語句を確かめ、語のまとまりや響きに気を付けて音読している。（〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、場面の様子に着目し、チロの行動を具体的に想像して読み方を考えている。（C(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

チロの行動を場面の様子と結び付け、声に出して読むときの言い方を考える。大きな声や演技の派手さを競わず、なぜその読み方にしたかを行動の言葉から話す。学習指導要領のC(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)オ・〔知識及び技能〕(1)クを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

行動が書かれた所を示してから、声の強さや間を試す。音読が苦手な児童は教師との交互読みや選んだ短い箇所の音読にする。会話文は教科書で確認し、配付資料に転載しない。おおむね満足できる状況は、場面の様子に着目し、チロの行動を具体的に想像して読み方を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を聞き、チロと出来事の大体を確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○前半の行動を読み、様子を言葉や動作で表す。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○後半の場面を読み、行動や様子の変化を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	6 （本 時）	○行動を手がかりに読み方を試し、そう読んだ理由を伝える。	思①（発言・学習記録）
	7	○好きな場面の音読を練習し、友達の感じ方を聞く。	学習状況を見て支援する。
	8	○音読を紹介し、行動と読み方の関係を話す。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○想像したことが読み方にどう表れたかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標

場面の様子に着目し、チコの行動を具体的に想像して読み方を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この場面のチコは何をしていますか。その様子を思い浮かべると、どんな読み方が合いそうですか」 【めあて】チコの行動を場面の様子と結び付け、声に出して読むときの言い方を考える。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ人物でも、場面が変わると読み方を変えたい。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「この場面のチコは何をしていますか。その様子を思い浮かべると、どんな読み方が合いそうですか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ人物でも、場面が変わると読み方を変えたい。 ・動きを思い浮かべると声の出し方が決まる。 ・友達の読み方から違う様子を想像した。	行動が書かれた所を示してから、声の強さや間を試す。音読が苦手な児童は教師との交互読みや選んだ短い箇所の音読にする。会話は教科書で確認し、配付資料に転載しない。 想定する難しさ：気持ちを本文と無関係に決める。読める速さや声量だけで比べる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 場面の様子に着目し、チコの行動を具体的に想像して読み方を考えている。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達の読み方から違う様子を想像した。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この場面のチ口は何をしていますか。その様子を思い浮かべると、どんな読み方が合いそうですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

